

パレスチナの人間の安全保障を改善するために： 命を守る SRH サービスを最も必要とする人々に届ける 日本政府の支援による IPPF パレスチナ (PFPPA) の活動



モバイル・クリニック活動、ヘブロン旧市街

プロジェクトの意義

占領が続き衝突が悪化するパレスチナでは、深まる金融危機とウクライナ侵攻による物価の急上昇を受け、人々は、ますます脆弱な立場に追い込まれています。セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR) の課題も多く、主要サービスは不足し、誤解とスティグマ (汚名) が広がり、保守主義の反動が強まっています。新型コロナウイルス感染症の影響でドメスティック・バイオレンスは増えているのに、シェルター、支援、医療サービスは、女性と少女たちから遠のいています。

プロジェクト概要

PFPPA は、2022 年 3 月にこのプロジェクトを性とジェンダーに基づく暴力 (SGBV) を含むセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR) サービスを促進し、脆弱でサービスが届きにくい、ガザ地区とヨルダン川西岸のパレスチナ女性と少女たちに届ける目的で始めました。

“日本政府の多大な資金援助により、脆弱で周縁化された女性・少女とその家族の生活が大きく改善されました。PFPPA とこのプロジェクトの恩恵を受けたパレスチナ女性と少女たちを代表し日本政府に御礼申し上げます。

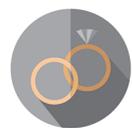
- アマル・アワダラ (PFPPA 事務局長)



50%
近い人々に人道支援が必要



29.4%
の女性が暴力を受けた経験がある



13.4%
の女性が 18 歳未満で結婚する



3.8%
合計特殊出生率



モバイル・クリニック活動、ヘブロン旧市街

01

クリニックを拠点とする診療：PFPPAの5つのクリニックで、3万6,000人の女性と若者（レイブのサバイバーを含む）に質の高いSRHRとSGBVサービスを提供します。

02

モバイル・クリニック（移動診療）：ガザ地区とヨルダン川西岸の国内避難民とホストコミュニティの女性と少女たちに重点を置きつつ、4,800人に災害時の緊急対応サービスパッケージ（MISP）を提供するモバイル・クリニック活動を展開します。MISPにはSGBV、HIVと性感染症の予防と治療、産科・新生児の救急ケア、家族計画、包括的な中絶ケアが含まれます。

03

在宅ケア（家庭訪問）：160人の妊婦の家庭を訪問し、出産前後のカウンセリングとサービスを提供することで、妊娠中から出産後までの健康を守ります。

04

妊婦の支援：30人の妊婦に出産準備に必要な一連のサービス（出産準備コース）を提供し、新生児必須ケアを含む、出産の前後に必要な基本アイテムを提

05

モバイル・ヘルス：2,000人の女性と少女に携帯電話アプリを通じてSRHとSGBVサービスを提供し、ホットラインなどの電話サービスで相談できるようにします。

06

SRHRの啓発と情報提供：3,000人の女性と若者に、SRHR関連の役立つ情報を提供し、サービスを受けられる場所などについて情報冊子とSNSを通じてお知らせします。

これまでの成果



18,537人

の女性と若者が質の高いSRHRとSGBVサービスを5つのPFPPAクリニックで受けました。

559人

がヨルダン川西岸とガザ地区でモバイル・クリニックチームからMISPを受けました。

20人

の女性が産前・産後の家庭訪問サービスでカウンセリングを受けました。

30人

の女性が「出産準備コース」を終了し、準備品を受領しました。

2,367人

の女性と少女が携帯電話アプリと電話を通じてSRHとSGBVサービスを受けました。

2,300人

の女性と若者がSRHR関連の役立つ情報をIEC資料とSNSから入手しました。

“

このプロジェクトはとても重要です。これまで何も医療サービスがなかった地域に医療を届けてくれたからです。この支援に感謝します

利用者のリーマさん（40）、ヘブロンのモバイル・クリニックにて

”



在宅ケア活動、ヘブロン



プロジェクト開始式の様子、ラマッラ